

日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

報告者 住山 茂

1. 概要

歩行名称にはブロック名（会則に記載）と概略歩行区間を記載する

歩行名称	北陸4
歩行区間	スタート地点：中伏木駅（万葉線） ゴール地点：浦本駅（えちごトキめき鉄道） 但し、親不知、子不知トンネルは歩行しなかったため、市振駅と青海駅間は空白
実施期間	2016年5月24日～28日
全歩行距離	87.5 km

2. メンバー表

No.	役割・分担	氏名	年齢	歩行日数	備考
1	リーダー	稲葉 勝利	71歳	5日	12期
2		尾崎 正彦	78歳	5日	4期
3		甲田 征三	71歳	5日	12期
4	記録	住山 茂	70歳	5日	12期
5		横山 泰一	71歳	5日	13期
6		田上 善夫	66歳	2日	17期

3. 歩行の概要

	月日	出発地～到着地	歩行距離	歩行参加者	備考
1	5/24	中伏木駅→鯉温泉	14.9 km	稲葉、尾崎、甲田 住山、横山、田上	
2	5/25	鯉温泉→滑川駅	16.4 km	甲田、横山	
3	〃	滑川駅→電鉄石田駅	16.7 km	稲葉、住山	
4	〃	電鉄石田駅→入善駅	13.3 km	尾崎、田上	
5	5/26	入善駅→市振駅	11.1 km	稲葉、尾崎、甲田、住山、横山	
6	5/27	浦本駅→糸魚川駅	8.3 km	〃	
7	5/28	青海駅→糸魚川駅	6.8 km	〃	

4. 費用

(1) 参加費

参加者延べ日数 5人×5日 + 1人×2日 = 27 人日

参加費合計 2700円

(2) 費用概算 (住山の場合)

交通費	11900円 (甲斐小泉⇄富山・糸魚川)
宿泊費	32260円 (1泊2食×4)
飲食費	14000円 (昼食・ビール・酒ほか)
その他	10000円 (バス・鉄道・土産ほか)
合計	68160円

5. 歩行の詳細

5月24日(火) 中伏木駅～鯉温泉

あいの風とやま鉄道(旧北陸本線)高岡駅にて全員が顔を揃え、万葉線(路面電車)にて出発地点の中伏木駅に移動。

中伏木駅に11時47分到着、直ぐに歩き出して庄川の土手まで行って昼食。

天気は晴れていて気持ち良く、夫々に駅弁などを食べる。



まずは庄川の土手で腹ごしらえ

庄川の鉄橋を渡る万葉線電車

庄川の鉄橋をゴトゴト渡る万葉線電車は低床式連節車で、まるでおもちゃのように見えた。

新庄川橋を渡り奈呉の浦の海岸線に出て、帆船「海王丸」の帆柱を見ながら富山新港の入り口をまたぐ新港大橋を渡る。この橋は車用と人・自転車用の二層構造になっていて、非常に高いので人や自転車はエレベータを利用して上下する方式だった。



富山新港大橋(橋脚の右端がエレベータ)



海老江海岸に行く

新港大橋を渡り、海老江の海岸沿いを歩き、火力発電所の煙突を見ながら少し海岸線を離れてこの日宿泊する鯉温泉の宿に到着。 16時55分

宿には日観連のマークが掲げられていて、我々の泊まる宿としては高級な？部類で、お値段もそれなりとなっていた。(1泊2食税込み 10260円)

5月25日(水) 鯉温泉～入善駅

この日の歩行は3班に分かれた分散歩行で、1班は宿から滑川駅まで歩き、2班、3班はバスで富山駅へ移動して、鉄道で夫々の出発地点の滑川駅、電鉄石田駅へ向かう。最終のゴール(集合)地点は入善の宿。

第1班(甲田・横山組) 鯉温泉～滑川駅

8時00分 鯉第一温泉ふじのや出発

神通川の萩浦橋を渡り東岩瀬の旧北国街道街並みを見ながら歩き、栴田酒造に立ち寄る。

9時35分 北前船廻船問屋森家を見学して、10時05分 森家を出発、古志の松原の自転車専用道路を歩く。途中から雨が降り出す。松並木の単調な道。



廻船問屋森家の前を歩く



岩瀬浜の松並木 左手が海岸

12時16分 常願寺川の今川橋を渡り、途中のお好み焼き屋で軽い昼食、食堂を探しながら歩いたがまったくなく、魚屋でゆでたホタルイカを頂く。

滑川荒町、芭蕉が泊まった川瀬屋跡を通り、結局滑川道の駅まで歩いた。

14時20分 滑川道の駅で昼食、15時15分に出発。

15時30分 滑川駅に到着、15時39分 滑川発のあいの風とやま鉄道に乗車。

16時04分 入善駅着 16時20分 宿到着

第2班(稲葉・住山組) 滑川駅～電鉄石田駅

8時11分 鯉温泉口からバスに乗り富山駅へ。9時13分あいの風とやま鉄道の滑川駅で下車。駅周辺には芭蕉の句碑や櫛原(いちばら)神社など色々な見学ポイントがあるので、少し中滑川駅方向に戻って見学。

ホタルイカ群遊海面の海岸線沿いに歩く頃から雨が降り出し、傘をさしての歩行となり風もあって足元が濡れる。10時25分 ホタルイカミュージアムで休憩。

早月橋を渡り水族館に到着、12時近かったので幼稚園の子供達がお弁当を食べていて、外のプールではペンギンが泳いでいたので子供達と一緒にペンギン見物。



ズラリ並んだホタルイカ ホタルイカを並べるオバチャン達 滑川は米騒動発生の地
雨は小降りになって魚津の街に入り、12時55分 魚津埋没林近くの海の駅にて昼食。

13時25分 海の駅を出て海岸に沿った道を歩き、経田(きょうでん)からは富山地方鉄道沿いの道に行く。
少し雪が残った山が見えていたがスッキリとは見えず残念だった。天気が良ければ田植えが終わったばかり
の田圃と残雪の山々それと電車が走る風景が見られたらうに。

15時05分 電鉄石田駅に到着。更に歩いて黒部駅まで行ったが、海側からはホームに入ることが出来ず
北側を回り込んで15時25分 黒部駅に到着。

16時09分の列車に乗ると第1班の2人が乗っていて、入善駅で下車して一緒に宿へ。

第3班(尾崎・田上組) 電鉄石田駅～入善駅

9時:33分 電鉄石田駅に到着する。西方の海岸に向かって町中を歩き、石田浜に出る。付近は片貝川の
北にあたり、磯浜が続く。この海岸線の北方に、蜃気楼の出現で有名な生地鼻灯台を望む。

蜃気楼は前日の24日、翌日の26日に出現したが、あいにく当日は現れず残念であった。

10時27分 海岸線に沿って北に歩き、生地鼻の手前で、『名水街道』に入る。この街道沿いの町に、
日本の名水百選の黒部川扇状地湧水群が続く。道沿いにあった神田の清水、弘法の清水、絹の清水などに
立ち寄る。おりから水質観測の巡回中で、尾崎さんが海岸を歩く会について説明され、水質測定について
説明を受ける。なお測定は、電気電導度、PH、溶存酸素であるが異常はなく、水温は12.5℃であった。
ときおり小雨がぱらつき始め、尾崎さんは雨具に着替えられる。



生地の湧水群の一つ、弘法の清水

酒造工場を案内してくれた女性

10時45分～11時25分 湧水群の中にある、皇國晴みくにほれという造り酒屋に立ち寄る。その店での試飲は
なかったが、工場の方でできないか電話できいてくれる。担当の女性が工場をていねいに案内してくれ、
商売っ気もなくたくさん試飲してくれるのに感動する。

11時40分～12時40分 ときおり小雨模様となる。黒部漁港の脇にある魚の駅で休憩・昼食をする。小あがりになり、尾崎さんと二人でおすすめのゲンゲ定食(1200円)を注文する。

12時58分 再び海岸線に向かい、生地鼻の灯台と隣接した加賀藩の生地台場跡に至る。海に突き出た地で、ここから北は黒部川の流域となる。

14時06分 黒部川にかかる下黒部橋を渡り、黒部川右岸を再び海に向かい、途中の公園で休憩する。河口部の右岸では、大量の消波ブロックが製造されている。海岸の堤防に添って歩き、芦崎の公園で小休止する。芦崎地区は寄り回り波という高波被害をしばしば受けたため、堤防が非常に高くなっている。堤防に沿って歩くと、リーダーの稲葉さんにもご紹介いただいた、アワビやカキで有名な海洋深層水パークが見えてきたが、時間がおしてきたので、残念ながら通過する。

15時06分 海岸線に沿って園家山砂丘^{そのけやま}が延びている。切通しにされた断面がみえている。空模様が回復し始めて、アルプス北部まで見通せるようになる。

16時05分 堤防に海底林の表示がされているが、海面下にあるので確認はできない。付近の扇状地側には杉沢の沢杉が見える。ここも残念ながら通過する。

16時41分 国交省の田中観測所の脇を通り、平安前期の荘園管理施設跡とされる、じょうべのま遺跡に至る。隣接して設置されている風力発電機は、羽の先が高さ103mで、かなり前から見えていたが、ようやく到達する。

17時25分 じょうべのま遺跡で海岸線を離れて、緩やかな扇状地を東に向かって上がっていく。工場街を抜けてあいの風とやま鉄道の入善駅に至り、田上はここで別れる。

5月26日(木) 入善駅～市振駅

8時25分 宿を出発 雨を覚悟していたが天気は良くなる感じであった。

海岸近くには橋がないので海岸線には出ずに、ほぼ鉄道の線路に沿った道を行く。

赤川橋の手前で田圃に沿った水路の草取りをしているバアチャンと談笑、写真も取らせてもらう。



農作業をするバアチャン



芭蕉の句碑「わせの香や分入る右はあり磯海」

泊の町の北側を通過して元屋敷で海岸線に出る。晴れたのは良いが気温も上昇、笹川橋近くの芭蕉の句碑の木陰で休憩、この辺りは芭蕉の句碑が多くある。

11時25分 越中宮崎駅を通過して国道沿いの食堂に入り昼食。この辺りは「たら汁」が名物となっていて「たら汁」と書いた看板や旗が目についたので、たら汁定食を食べる。

美味かったが骨が多かったのがやや難点か？

この日の宿は越中宮崎駅の直ぐ近くだったので少し戻って宿に行き、荷物を降ろして12時51分の列車で市振まで行くことにする。

市振駅から逆(西)方向に歩く。越中宮崎駅との丁度中間点辺りに境関所跡があり、資料館で展示品などを見学。更に護国寺も見学、中々立派な庭園などもあり、昔は交通の要衝でかなり栄えていたものと想像できた。



富山県から新潟県に入る

この辺りの海岸はヒスイが採れることで有名、メンバーの内の2人はヒスイハンターとなって波打ち際をヒスイの原石を探しながら歩いていたが、結果は???

15時50分 宿に戻る。

宿の人から明日の親不知、子不知のトンネル区間は歩道もなく、大型トラックが壁ギリギリに走り非常に危険なため歩くのは止めた方が良い、と強く反対される。

このためメンバーで相談し、トンネル区間の歩行は止めて市振駅と青海駅の間は歩かず、翌日は糸魚川の先の浦本駅から糸魚川に向かって歩くことにする。

なお、宿は予定通り青海とし、最終日は予定通り青海から糸魚川まで歩くことにした。

夕食時に海岸で拾った石を宿のオバちゃんに鑑定してもらったところ、殆どがボツで、可愛そうだからと2~3個残してくれた、そんな結果だった。

5月27日(金) 浦本駅～糸魚川駅

夜中かなり強い雨が降り、朝になっても降ったり止んだりの天気だったが、予定通り出発して浦本駅で様子を見ることにする。

7時45分に宿を出て越中宮崎7時51分の列車に乗り8時29分浦本駅着。

浦本駅(店も何もない)で暫らく様子を見ていたが、雨が小降りになったので8時55分に歩き出す。

昔の番屋風の建物(現在も一部は使われている様子)が立ち並ぶ海岸線沿いのサイクリングロードを歩き、9時35分中宿のコンビニで一休み。

雨も上がり少し陽ざしも出て来たなか、更に海岸沿いのサイクリングロードを歩き糸魚川の市街へ。

早稲田大学校歌や童謡「春よ来い」などの作詞者「相馬御風(そうまぎょふう)」の家の跡などを見て11時45分に糸魚川駅に到着。

駅前のそば屋で昼食後、観光物産センターで土産物などを購入する。東南アジアなど海外産のヒスイは糸魚川産に比べて安く売られていたが、物によっては着色されている場合もあるとか。

列車で青海へ戻り、14時に青海駅近くの宿に入る。

時間が早かったので、子不知トンネルを見にいたり、海岸を散策したり、夫々に情報収集をする。

この辺りでは1月15日に「竹のからかい」なるお祭りが開催され、2つの地区に分かれて竹を引き合いその年の豊漁と豊作を占う古式豊かな民族行事との説明板があり、駅前には竹が植えられていた。

5月28日(土) 青海駅～糸魚川駅

8時25分 宿を出発、海岸線沿いの遊歩道を歩く。この辺りの海岸はラベンダービーチと名けられていてラベンダー色のヒスイが見つかるらしい。ヒスイは見つからなかったが、色々の花が咲いていて綺麗だった。

土曜日だったので釣りに来ている人が多く、またヒスイ探しの人も居た様だが、我々は前日の結果からヒスイ探しは諦めて糸魚川目指して歩く。

10時に姫川橋を渡り、糸魚川市街に入り塩の道の基点を見学、見学と言っても案内板が立っているだけでそれを見る程度であったが。駅前の商店街には一部に雁木が残っていた。



浜ひる顔などの花々が咲く海岸線を行く



糸魚川市内の雁木(お酒は「謙信」)

11時10分 糸魚川駅に到着、今回の歩行を終了する。

駅前の食堂に入り打ち上げをして、糸魚川駅で別れ夫々帰途につく。



今回の歩行の東端「浦本駅」



糸魚川駅で解散

6. 歩行全体のまとめ

今回の歩行は特にトラブル等もなく終了したが、雨に降られたり、期待してた残雪の山々もスッキリとは見えず、天気にも恵まれたとは言えなかった。

また、今回は親不知、子不知のトンネル区間の歩行を断念したが、この区間については今後歩くかどうか、若し歩く場合は歩き方をどうするか等、検討する必要がある。

一方、ホタルイカやシロエビを食べ、また宿ではカニが出てきたりして食べる方は良かったし、水とお米が良いためだろう、歩いている道筋にはお酒の蔵元が多く、お酒の方も大変おいしく頂いた。

参考の子不知トンネル(洞門)部分の写真を示す



入り口付近から西方向を見る



洞門内部から東方向を見る

7. 全体地図

